

企業に求められる安全管理



日油株式会社 代表取締役社長 **宮道 建臣**
Takeo Miyaji

2020年8月4日に中東・レバノンの首都ベイルートの港で大規模な爆発があったことを覚えている方は多いかと思います。その2回目の爆発ではベイルートの中心部を揺さぶる巨大な赤い塵の雲が空中高く立ち上りました。私も日本のニュースで流れる現地の衝撃的な映像を見ていました。記録によれば、2020年8月末の時点で犠牲者190人、負傷者6,500人余りと伝えられています。

その原因は、倉庫に適切に保管されていなかった硝酸アンモニウム約2,750tであったと発表されています。硝酸アンモニウムの爆発事故は過去にもあり、中国天津の倉庫で大規模な爆発事故があり165人の尊い命が失われました。

硝酸アンモニウムは白い結晶の固体で、主に高窒素肥料として農業で使用されています。比較的安定した化合物ですが、今回の事故は大量の硝酸アンモニウムに引火し、続いて起きた化学反応で大きな火の玉が発生し、爆発を引き起こしたとされています。肥料用に同程度の量の硝酸アンモニウムが世界中に出荷されていますが、問題は大量に1カ所に保管されていたことにあります。通常は、分散して保管すべきもので、この重要なルールを

守らなかったことが大事故を発生させました。

弊社は総合化学メーカーですが、製品として世間一般で危険なものとして分類されている火薬類や有機過酸化物等を提供している数少ないメーカーであり、安全管理に係る技術の中でも保管管理は重要な項目として位置付けております。製品に応じた温度管理、湿度管理をはじめ、異物混入や衝撃防止など、製造から製品の出荷まで緩みなく行っています。

また、お客様にもSDSなどを通じて安全な取り扱いに関する情報を伝達し、世の中に役立つ化学物資を提供し続けています。

製造業においてはコンプライアンス、安全第一などの言葉が合言葉のように言われます。これらの言葉が単なる言葉ではなく、現実のものとするのは、そこで働く人々が日々努力し、実行していくことでつくり上げるものです。一人ひとりが常に安全を意識することで、未然に防ぐことができる事故は多くあります。過去の事故も教訓として、我々が長年培った固有技術、知識を、これから企業を担っていく若い人たちに確実に伝承することが、企業としての使命と捉え、日々精進してまいります。

公益財団法人総合安全工学研究所 理事・監事

理事長 田村 昌三 東京大学名誉教授
(代表理事)
専務理事 小川 輝 繁 横浜国立大学名誉教授
(執行理事)
常務理事 福 富 洋 志 横浜国立大学名誉教授
放送大学神奈川学習センター所長
常務理事 若 倉 正 英 (国研)産業技術総合研究所客員研究員
(特非)保安力向上センターセンター長

理事 新井 充 東京大学名誉教授
理事 高木 伸 夫 (有)システム安全研究所所長
理事 谷 質 生 日油技研工業(株)川越工場長
理事 三宅 淳 巳 横浜国立大学先端科学高等研究院
副高等研究院院長・教授
理事 安原 洋 東京通信病院病院長
監事 河野 晴 行 (公社)日本煙火協会専務理事
監事 田中 保 正 元(一社)日本芳香族工業会専務理事